



城陽市歴史民俗資料館

友の会だより

編集発行：城陽市歴史民俗資料館友の会
〒610-0121 城陽市寺田今堀1番地 城陽市歴史民俗資料館
TEL0774-55-7611 FAX0774-55-7612 www.city.joyo.kyoto.jp/rekishu/
発行日：令和6(2024)年6月16日

No. **53**
2024.6

今後とも「友の会」をよろしく！

第10回歴史民俗資料館友の会総会報告

城陽市歴史民俗資料館友の会会長 泰地 賢治

会員各位におかれましては、常日頃、友の会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

今般、各位のご協力により、下記の通り第10回総会を開催することができ、審議の結果全ての議案が賛成多数で承認されましたこと、ご報告致します。

1. 日時 2024年3月9日(土)
13時15分—14時00分
2. 場所 文化パーク城陽 第4会議室
3. 総会成立の可否 成立(出席24名、委任43名
合計67名) [38名以上で成立]
*成立条件(会則13条1項) = 会員(総会時76名)の1/2以上(委任を含む)

また、会長改選の結果、私が今後2年間(2024年度・2025年度)、会長を務めさせて頂くこととなりました。席上、今年度の役員について紹介させて頂くとともに、会員各位には別途「役員一覧」をお送り致しました(4月27日)。役員一同、どうぞよろしくお祈りいたします。

【友の会の現状】「友の会」は、城陽市歴史民俗資料館を市民側から支えるために発足し(2003年)、それぞれの時代の諸先輩方の想いをつなげながら、昨年度、創立20周年の節目を迎えることができました。その間、「コロナ禍」により日常の活動が制限されたときもありましたが、会員各位の便宜を図りながら、会員の新規入会や継続を容易にするためのいろいろな施策を講じて参りました(下記の会則の改正をご参照ください。)

1. 入会金(1,000円)の徴収を廃止(6条1項の改正、2018年)。
2. 夫婦会員の年会費を低減(3,000円を2,000円に)(6条1項の改正、2018年)。
3. 年会費の減免(2023年)
 - ①やむを得ない事情(コロナ禍対応など)により適切に年会費の支出ができなかった場合、年会費を減免する(6条3項の新設)。
 - ②残りの有効期間が短い時期に入会した時の年会

費を減免することにより、割高感を解消する(6条4項の新設)。

4. 総会に代えて書面による表決ができる(13条2項の新設、2023年)。

一方、現在の会員数をみますと、発足当時の会員数(約100名)を維持できていない状態です。例えば、ここ数年(2016年～2023年)の会員数は年平均で入会6名、退会7名と漸減の傾向にあります。会員が減少の傾向にあることは、当会に限らず他の社会団体においても同様ですが、その要因として会員が高齢化し(役員も同様)、定年の延長、趣味の多様化などによって若い年代者の参加が少ないことなど、個人的や社会的な環境が大きく変化していることが考えられます。

このような状況下において、友の会が会員の皆様にとって少しでも有意義な場であるためにはどうすればよいか、役員一同模索しています。ご意見、お気づきの点があれば、どうかお聞かせください。そして、今後とも「友の会」をよろしくお祈りいたします。

【友の会の行事へのお誘い】

「新型コロナウイルスの感染症の法的位置付けが5類に移行して8日で1年、府内ではクラスター(感染者集団)が続いており、医療関係者は「新型コロナの危険性を忘れてはいけない」と警鐘を鳴らしている。昨年5月以降、京滋とも夏と冬に流行の「波」が到来していた。」とのこと(京都新聞2024年5月8日)。これから梅雨に入り、暑い夏を迎えます。どうか体調にご留意のうえ、順次ご案内する研修見学会、各種講座や講演会でお会いしましょう。お待ちしております。

館長就任のごあいさつ

城陽市歴史民俗資料館館長 薄井 ゆみこ

本年4月1日より館長を拝命いたしました薄井ゆみこです。友の会の皆様には、思い起こせば、私が初めて資料館に学芸員として採用されたのは平成15年でした。その年に友の会設立の機運が高まり、翌16年1月に友の会が発足しました。まだ右も左もわからずにうろろろしていた私に、地域の資料について教えてくださったり、やさしく声をかけてくださったのが友の会の皆様で、今日まで支えていただき、改めてお礼申し上げます。

さて、皆様ご存じのように城陽市は古墳のまち、五里ごりの里とも呼ばれています。古墳がたくさんこの地に造られたのも、西に木津川が

流れ、東側をなだらかな丘陵地帯とする、川と山の恵みが豊かな地域であるからですし、古くから京都と奈良の二つの都の中間にあって交通の要衝であり、近世以降は宿場町もおかれた地域です。そして現在は新名神高速道路の開通も控え、まちの風景も変わりつつありますが、その城陽市の文化財を守り伝えていく拠点として、また市民の皆様の知的好奇心に応える社会教育施設として、幅広い年代の方たちに親しんでいただける資料館を目指して参りますので、引き続きご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

古文書講座再開にあたって

友の会 / 古文書講座担当 村上 弘芳

1. 「古文書との出会い」について：

冒頭から私事で恐縮ですが、「古文書の世界との出会い」がどのような形でなされたかを書いてみようと思います。これから勉強してみようと考えておられる方々の参考になれば望外の喜びです。発端は「歴史民俗資料館の古文書講座」ではなかったかと思っています。勤め人の生活を卒業してパートでの勤務だった2009年5月ですから丁度15年前に資料館で古文書講座（極楽寺文書）「六ガ池切ノ記」（一富野の洪水の記録一）を受講しました。これが初めての古文書との対面でした。嘉永5年（1852年）の実話ですから木津川には勿論堤防はありません。増水して六ガ池の堤が切れて東富野・西富野等へ濁流が押し寄せた実話が

書かれた文書です。今では原文でも結構読めるのですが、その時はT先生の講義について行くのが精一杯でしたが、“面白いものだな～”との印象があり現場まで（木津川堤防六ガ池辺り）テキストを持って足を運んで、文章と場所を照らし合わせた記憶があります。

他には、「海陸道順達日記」（一旅日記に見える長池宿一）もあり、長池宿に泊まった旅行者の感想等が載っているもので、文字通り地元を描いた古文書であり親近感もあります。

旅籠とは松屋藤兵衛で奈良街道の長池宿の浪花講の定宿だったそうです。松屋は良心的な旅籠屋として旅人の間では有名だったそうで、現在はお菓子屋さんをしておられます。

2. それからどうしたの? / どうするの?

最初の城陽市歴史民俗資料館での講義を受けてから2年後にフリーとなり自由な時間が増えました。「古文書を楽しむ事」に関しては、できるだけ費用が少ない所を探しましたが当時は結構あって、山城郷土資料館・八幡市・京都市内・京田辺市等の講座でお世話になりました。(勿論、城陽市の講座も)何も知らない所からベースを作って戴き、“くずし字用例事典”が使える様になってから、「龍谷大学の社会人向けセミナー(REC講座)」へ何年か通いました。春秋年2回(各5~6回)の講義で初級・中級・上級と進み、特に上級クラスでは講師との議論等もあって格別に楽しい時間だったと思います。この講座は残念ながらコロナ以降は再開されていません。現在は古文書サークルで趣味を同一とする方々と切磋琢磨

しています。

又、ネット上にて教材はいくらでも公開されていますので、パソコンで自分自身で学習する事が可能です。

古文書に使う時間は趣味の一つとして、ある程度読める様になると面白くなって自分自身でも時間を費やす様になりますが(実感です)、そこまで自分自身の気持ちを持続していくのは結構大変だと思います。古文書のサークルはあると思いますが、「初心者向け」はそんなにはないと考えられますので、基礎の参考書を一冊だけ持って繰り返し学習し、同時に費用の余りかからない講座を探して受講する。何でもそうですが『継続は力』だと感じます。

楽しみながら歴史や暮らし等を学ぶには格好のものだと思いますので是非!!

3. 歴史民俗資料館「古文書講座」(2012~2022年)の実績

これ迄の実績の全てではありませんが、下記の様です。講師をして下さった元調査員の田中香織さんに改めて感謝したいと思います。

*約1,000名にならんとする方々の参加を得ています。有難うございます。

ナンバー	開催年度	回数	題材	参加人数(延べ)
1回目	2012	5	方丈記	カウントなし
2回目	2013	4	伊勢物語	100
3回目	2014	4	御伽草子	82
4回目	2015	4	伊曾保物語	78
5回目	2016	4	徒然草①	111
6回目	2017	4	徒然草②	115
7回目	2018	4	醒醉笑①	100
8回目	2019	4	醒醉笑②	100
	2020	中止		
9回目	2021	4	更級日記	111
10回目	2022	4	土佐日記	92

4. 『古文書講座』再開の内容(2024年)

今年度の古文書講座は、7月26日及び8月2日に開講の予定です。会員の方々には別途ハガキ等でお知らせを致します。

4-1) 古文書講座再開について:

今年度、田中香織さんの後任として「調査員・

古文書講座担当」として水沼尚子さんが着任されました。友の会古文書担当である野村さんを含めて3名で“古文書講座再開等”について打ち合わせを行いました。要旨は次の通りです。

(1) 講座の再開について異論はなく、出来れば

「講義の聴講のみでなく、受講者も参加できる形態とする」ことで合意しました。

(2) 対象は初級者から中級者を主眼とし、形式としては次の様な流れとしたい。

- ・レジュメ（史料/フリガナ付き）を各自が読んでみる⇒講師が解説する。その間、受講者からの質問は歓迎⇒レジュメ（回答書）に沿って本文の解説。質問は歓迎～の流れで進めてみる。

4-2) テキストの内容：

- (1) 「萬家重宝 大成用文章」江戸時代の百科事典とも言われる「重宝記」の内の一つ。女性・男性の教養を説いた「女重宝記」「男重宝記」をはじめ、農業・薬学・呪詛に到る迄、様々な「重宝記」が発行されておりこの一部を題材とします。
- (2) 特徴は市井の人たち向けなので“ひらがな”がふってある箇所が多く、文字のくずし字も比較的読みやすいが、具体的な名前・地名・年月日の記載はありません。

(3) 実施内容としては、第一回目は「大成用文章」に取り上げられた「奉公」について読み、城陽で同様な古文書があればそちらも見てみる。第二回目は、「季節の挨拶」について実施し、上記と同様に考えてみる。

***役員会で提案し了承を得るプロセスをとりました。

5. 歴史民俗資料館の古文書展示：

文パル西館4階の“歴史民俗資料館 常設展示室”には古文書も展示されています。

次回の古文書講座（7月26日、8月2日）のテキストである「萬家重宝 大成用文章」（江戸時代の百科事典）の内“養子縁組”に関する文例と“実際の養子縁組で交わされた古文書”が解釈文と共に展示されています。又、中天満神社の「屋根葺替のお願い書」の文書や狛犬も展示されていますので、是非ご覧ください。

*各文書は釈文（読み下し文）も記載されており、定期的に更新されています。

友の会創立 20 周年記念 特別講演会 「城陽の歴史（全 2 回）」

1. 講義の概要

(1) 第 1 講

- ・演題 1 = 「城陽の歴史」古代・中世 [2023年8月26日（土）13時30分～15時00分]
- ・内容 = 縄文時代、弥生時代、古墳時代、飛鳥・白鳳時代。奈良時代、平安時代、鎌倉時代、南北朝・室町時代
- ・参加者 28名

(2) 第 2 講

- ・演題 2 = 「城陽の歴史」近・現代 [2023年9月9日（土）13時30分～15時00分]
- ・内容 = 江戸時代、明治、大正、昭和・平成・令和
- ・参加者 20名

2. 場所 文化パルク城陽 第4会議室

3. 講師 元城陽高校主幹教諭 村本 幹夫 氏



4. 資料 村本幹夫著「城陽の歴史」（2020年発行）並びに関連する多数の資料（新聞記事など）を紹介された。

後日、城陽高校国語科の編集・執筆による書籍「南山城の文学（昭53）」の寄贈を受けました。

友の会創立 20 周年記念事業の一環として、特別講演会が開催されました。

実施日 2023 年 10 月 28 日 (土)

13 時 30 分～15 時 00 分

講師 京都府立京都学・歴彩館 若林 正博 氏

参加者 34 名

○家康の居所中心地についての考察＝慶長元年(1595)～慶長 11 年(1606)のうち、前半は豊臣政権の家老として、後半は徳川幕府の基盤を固めるため、伏見を拠点として行動することが多かった。

○家康の政権取り(京都と大坂の間)＝豊臣政権：公儀の城は京都(秀次の失脚により聚楽第から伏見城に機能移転)。大坂は豊臣家の城。徳川家康：大坂で秀頼に伺候せず、伏見で豊臣公儀権力を執行し、豊臣家家老からの脱却をはかる。

○徳川幕府にとっての伏見＝徳川家康：在位期間の半分以上(462/802 日)は伏見城を拠点に活動(伏見幕府の様相)。徳川秀忠：大坂の陣、将軍家の拠点となる。元和年間初期は隔年で伏見城に数か月滞在。

アンケートのまとめ

1. 「特別講演会」に関する受講者からのご意見等
(出席者 34 名内有効回答 29 名)：

1-1) 難易度は？：

① 難しかった 0 ② 少し難しかった 6 名

③ 理解できて楽しかった 23 名

1-2) 歴史民俗資料館の講演会に参加されたことは？

① 初めて 6 名 ② 複数回参加 13 名

③ ほぼ毎回参加している 10 名

1-3) 講演会の進め具合(スピード)は如何でしたか？

① 普通であった 18 名 ② 少し早かった 11 名 ③ かなり早く難しかった 0

1-4) 年齢層をお尋ねします。

① 50 代またはそれ以下 0

② 60 代 3 名 ③ 70 代又はそれ以上 25 名

*無記名 1 名

1-5) 本講演会はどの様にしてお知りになりましたか？

(複数可)

① 会員への案内(友の会だより、案内葉書) 20 名 ② 友

の会 H.P. 2 名 ③ 市の広報紙 7 名 ④ 知人から 4 名

⑤ その他 2 名 *無記名 2 名

1-6) 本講演会で「特に印象に残った事象」はどの様なものだったでしょうか？

・伏見城の重要性を感じました。

・家康と寺田の関係

・伏見で家康が江戸への準備をしていたという事。地形から読み解く面白さ。

・伏見の地政学についてよく理解できた。

・伏見の重要性。

・巨椋池と伏見城下の関係。元祖銀座の地名。

・伏見が江戸の苗代だったという事。

・伏見と言えば秀吉と思っていたが、家康は政庁に一見方が変わった。

・家康が関西にいた間は、江戸にいた期間より長かったこと。そして、大御所になって以後は駿府に居た間が長かったこと。指月城から伏見城へ移る間に慶長伏見大地震があったことが会長の質問に答えられる講師の説明の中で分かってこれまでの疑問の一つが解消した。

・豊臣秀吉と徳川の政権基盤が伏見の地由来と知った事。また、政権基盤は後継者と共に二重構造になっている場合が多い？と理解した。

・秀吉から家康への権力の移動の経過がよくわかった。また、伏見の性格や役割もよくわかった。

・グラフや「たとえ」を使われてわかりやすかった。

・家康が伏見に一年の半分以上居て、いつも寺田をみていたのが良くわかりました。「いつも寺田があった。将軍家康の視線の先に」の意味がよくわかりました。

・伏見の役割が面白かった。

・観月橋に住んでいた時に、伏見桃山界限をよく歩いたものです。御香宮もしばしば訪れていた事も(今年の夏に友人を案内しいわれを少し説明)思い出して懐かしく講義を拝聴しました。西本願寺の国宝・唐門も伏見城の遺構とされているようですし、福山城や淀城等へも移築されている由。但し、養源院や宇治の興聖寺の「血の天井等」はどうなのかなと思いながら楽しく聴かせて戴きました。有難うございました。

友の会総会記念 講演会 『中世文書、はじめの一步 - 東寺百合文書を中心に -』

アンケートのまとめ

実施日 2024年3月9日(土)

講師 京都市立京都学・歴史館 田中 香織 氏

1. 『中世文書講座一』に関する受講者からのご意見等(出席者36名内有効回答32名):

1) 難易度は?

- ① 難しかった 8名
- ② 少し難しかった 4名
- ③ 理解できて楽しかった 19名
- ④ 無回答 1名

2) 歴史民俗資料館の講演会に参加されたことは?

- ① 初めて 3名 ② 複数回参加 21名
- ③ ほぼ毎回参加している 8名

3) 講座の進め具合(スピード)は如何でしたか?

- ① 普通であった 20名
- ② 少し早かった 11名
- ③ かなり早く難しかった 1名

4) 東寺百合文書についてお尋ねします。(複数可)

- ① 名前は知っていた 18名
- ② 内容については知らなかったが概要は理解できた 17名
- ③ 段階に分けて今後も何回か開催して欲しい 8名

5) 本講演会はどの様にして

お知りになりましたか?(複数可)

- ① 会員への案内(友の会だより・案内葉書) 25名
- ② 友の会のH.P. 1名
- ③ 市の広報紙[じょうよう] 5名
- ④ 知人から 0名 ⑤ その他 2名

6) 本講座で“特に印象に残った事象”や今後どの様な講演会を希望されますか?

- ・ 中世文書の理解は難しい。少し挑戦してみようかなと思います。
- ・ 古文書に興味をわいてくる貴重な講演でした。チャレンジしてみようと思います。
- ・ 専門的すぎる内容だったと思えた。
- ・ 中世文書の決まり事/読み方等が難しかった。
- ・ 個人的には高度なものでしたが、未知の世界で楽しかったです。

- ・ 手紙のならわしについて、正しく理解ができて嬉しかった。
- ・ 「案」と「写」の違いがわかりました。面白いですね。
- ・ 書札札/女房奉書
- ・ 身分の差が厳しかった社会を反映して、書状にも厳格な守るべき儀礼があったこと。
- ・ 大きい字から小さい字を読んでいく。書き足したいときは、右から書く。東寺百合文書の続きをお願いします。わかりやすい説明ではじめてにふさわしかった。
- ・ 博物館などの見方が変わったかも――。
- ・ 百合文書をやさしい現代言葉で説明されて、講師らしさが発揮され懐かしかったです。これからは城陽に足を運んで下さいね。是非、続きが聞きたいです。
- ・ 説明が聞きとりやすくて良かったです。
- ・ 書札札が面白かった。
- ・ 文書を書くルールが印象深かった。
- ・ 本物を見る事は重要である」と講師も言われていましたが、京都では幸いにも「京都文化博物館」や「京都市立京都学・歴史館」等で鑑賞することができます。令和5年度冬季特別展(前期・後期)は古文書愛好家にとっては垂涎の的でした。静謐な展示室で60点の展示品の内で約9割が国宝というとんでもない環境に身を置いていること自体が信じられない思いでした。東寺百合文書もweb.で読んで見ようと思っています。又、可能であれば「次回の特別展」が早期に実施されんことを祈念するばかりです。



第 56 回研修見学会

談山神社（桜井市）、奈良県立万葉文化館・飛鳥寺（明日香村）を訪ねる

2023 年 9 月 22 日（金）

聖徳太子から大化の改新（飛鳥時代）について [寄稿]

第 56 回研修見学会は、大化の改新に関連する談山神社と蘇我氏が建立した飛鳥寺でした。当日配布した資料を会員の皆さまの歴史探究の資料になればと改めて寄稿します。

近年、高校の教科書では、聖徳太子の名称が、厩戸王（聖徳太子）と記載する傾向になっています。聖徳太子は、後世に厩戸王に贈られた名前、憲法 17 条、冠位 12 階、遣隋使の派遣の偉業も太子一人が行ったのではないとされる。理由は、厩戸王の死後 50 年が経て起こった壬申の乱で天皇の権威が失墜したため、天武天皇（大海の皇子）が「天皇中心の中央集権律令国家づくり」を進める上で、厩戸王に着目し「聖徳太子」を作り上げたと言われます。

以下に時代を追ってこれまでの史実を記しています。

- 538 欽明天皇 百濟聖明王が**仏教**（仏像・経典）伝える、蘇我・物部氏の争い
- 585 聖徳太子 蘇我馬子・聖徳太子が物部氏を討つ
：蘇我氏と聖徳太子は姻戚関係で協力的
：一方、太子は天皇中心政治へ、蘇我氏とは仲が悪いとの説もある
- 592 推古天皇 摂政聖徳太子による政治
：官位 12 階・17 条憲法制定、遣隋使派遣
- 618 唐が成立、中央集権制を敷いて周辺諸国を圧迫、朝鮮半島では危機感が深まる
- 622 聖徳太子没 蘇我氏が実権を強める
- 642 皇極天皇 蘇我入鹿執政、百濟と関係が深く唐の侵攻に危機感を持ち天皇を傀儡とする政権を志向、一方遣隋使帰国組の留学生は唐の制度を参考に豪族連合から中央集権王朝を志向
- 643 蘇我入鹿は舒明天皇の皇子古人大兄皇子を天皇にするため聖徳太子の御子山城大兄皇子を斑鳩宮に攻め入り自害に追い込む
- 645 大化の改新 飛鳥・法興寺（蘇我馬子発願寺：菩提寺）蹴鞠会で出会った中大兄皇子と中臣鎌

足（藤原氏の始祖）が談合、飛鳥板蓋宮 **乙巳の変**：中大兄皇子（皇極天皇の御子、天智天皇）と中臣鎌足が曾我入鹿を討つ

蘇我蝦夷自害

- 646 孝徳天皇 **四ヶ条の改新の詔**を發布（公地公民制、班田収授法、租庸調の制定）
- 660 齊明天皇（皇極天皇）新羅と百濟の争いに百濟支援を決定
- 663 天智天皇 白村江の戦い：倭・百濟と唐・新羅：大敗し唐の侵攻に備え天智天皇が近江に遷都
- 672 壬申の乱 天智天皇崩御、後継をめぐる乱、弟大海人皇子（天武天皇）と息子大友皇子の争い
天武天皇 飛鳥浄御原 八色の姓、国史の編纂
- 690 持統天皇 天皇制、官僚制を軸とする中央集権的国家の完成
- 694 藤原京成立
- 701 文武天皇 大宝律令

蘇我氏について

6 世紀の初め頃から歴史に登場している。蘇我稲目の娘堅塩媛が欽明天皇の皇后など天皇の外戚として権力を得、渡来人の集団を支配して、進んだ知識、技術を活用、仏教を崇拝したことから有力な豪族となった。

有力豪族である神道派の物部氏とは対立関係であった。馬子・聖徳太子が物部と争い勝利する。

明日香村の石舞台古墳は、馬子の墓と言われ上円下方墳。

百濟の聖明王の使者が欽明天皇に釈迦如来像や経典を献上したことが仏教伝来の始まりで、蘇我稲目が仏教を受け入れることを主張。馬子は、仏教を広めるため 588 年飛鳥寺を建立した。

・武内宿祢（神功皇后三韓征伐で貢献）と後裔：蘇我稲目・蘇我馬子・蘇我蝦夷・蘇我入鹿

（友の会 高橋正典）

第 57 回研修見学会

岐阜県関ヶ原古戦場記念館

2023 年 11 月 11 日 (金)

関ヶ原の合戦、天下分け目の布陣を実感

当日配布しました資料から「関ヶ原の合戦」についての部分を抜粋してご紹介します。

関ヶ原の合戦

戦国乱世に終止符を打ち、全国を統一するという事業を、信長はその壮図の中で斃れ、秀吉がそれを引継いで達成し、家康が最後の仕上げをしたという歴史の経過については今更繰り返す必要もない事実である。

人間はただ長生きすれば良いというわけではなく、如何に充実した生き方をするかである。

信長は明智光秀の謀反で 49 歳で非業の死を、秀吉は 63 歳で天寿を全うしたかもしれないが、晩年は朝鮮出兵をするなど誇大妄想の気味があり、政権存続の手当が十分ではなかった。家康は元和元年(1616)大阪の役で豊臣氏を滅ぼした翌年、人生の目的をすべて実現したかのようにして 75 歳の人生を全うするのである。

関ヶ原の政治決戦

関ヶ原は中山道と北国街道が交差する交通の要衝で、約 2 km 四方の盆地である。当日ここに終結した軍勢は東軍七万四千、西軍八万二千、計十五万以上の人員が終結。日本の戦史上最大の戦いとなるのである。この戦いに勝つ者が日本の支配者になるための政治的決戦でまさに天下分け目の戦いであった。

慶長五年(1600)の五月会津の上杉景勝を討伐のため出陣した、七月には今の栃木県、下野国に到着、三成が拳兵最初に伏見城を落とし、大垣城にはいる。

一旦は大垣城に籠りそこで東軍との戦いをしようとした三成は、東軍が大垣城を無視し、中山道を西進する方針をとったことを知り、急遽大垣城を出て関ヶ原に布陣邀撃体制に入ったのである。つまり野戦上手の家康に引き出されたのである。家康としては、三成が動かなかつたら、一路三成の居城である佐和山城を目指したのではないでしょう



か。これが九月十四日の早朝である。

合戦の様相

三成の布陣は見事なものである、関ヶ原盆地の東西を中山道が貫き、南北には小丘陵が迫って低地を俯瞰している。その中腹に西軍の八万二千が布陣したのでしたのです、その全員が一丸となって闘っていたとすれば、「たれば」の話ですが歴史は変わっていたのではなかったでしょうか。

西軍の南西に位置する南宮山と松尾山標高三百から五百メートルの小山に布陣する毛利軍二万五千が全く参戦せず、松尾山に布陣していた小早川軍、それに引きずられた二万五千が東軍の寝返り、善戦していた西軍は小早川秀秋の裏切りで壊滅したのでした。

すべての作戦が家康の計算どおりに運んだのかは定かではないが、味方を裏切るそのような約束は保証の限りではない、絶妙なタイミングで福島正則に命じて松尾山に四発の鉄砲を撃ち込む。それを合図として小早川軍が三成の陣に攻めこみ東軍の勝利となるのである。

その後の歴史は皆様の知った歴史です。

慶長八年(1603)には征夷大將軍に任命され江戸幕府を開き、慶長十年(1605)には我が子に將軍職を譲り、慶長十九年(1614)10月大阪冬の陣、元和元年(1615)4月大阪夏の陣で豊臣氏を滅ぼし盤石の幕府を創るのである。元和二年(1615)4月家康亡くなる

(友の会 小林心一)

歴史民俗資料館年間事業予定

春の資料紹介

「古墳へ行こう！ 2024+ 発掘調査速報展」

期間：令和 6 年 4 月 27 日 (土)～6 月 23 日 (日)

内容：小学校 6 年生の社会科『日本のあゆみ』『大昔のくらしと国の統一』の学習に合わせ、久津川車塚古墳ができるまでの様子を模型やイラストで紹介。また、昨年度の久津川車塚古墳発掘調査の成果についても紹介。

秋季特別展

正道官衙遺跡史跡指定 50 周年記念展示

文化・スポーツ推進課共催

期間：令和 6 年 10 月 26 日 (土)～12 月 15 日 (日)〈予定〉

上記以外にも、常設展示室の近世、近代、民俗コーナー、ギャラリー (通路) など季節や時期に合わせて資料の展示替えを行う予定です。ご来館の際にはぜひ常設展示室の展示もご覧ください。



夏季特別展

「こどものおもちゃのむかしといま」

期間：令和 6 年 7 月 13 日 (土)～8 月 25 日 (日)

内容：江戸時代から現代までのおもちゃの変遷を「駄菓子屋玩具」「流行と定番玩具」等のテーマ毎に展示し、時代背景により影響を受けてきた子どものおもちゃについて紹介。

冬季企画展

「ちょっと昔の暮らしと風景」

期間：令和 7 年 1 月 25 日 (土)～3 月 20 日 (木・祝)〈予定〉

歴史民俗資料館年間事業についてのお問い合わせ

城陽市歴史民俗資料館

電話 0774-55-7611 FAX0774-55-7612